

【今週の注目疾患】

《パラチフス》

2023年第11週に県内医療機関からパラチフスの届出が1例あった。当該患者は海外への渡航歴があった。

2012年第1週から2023年第11週までに県内医療機関から届出のあったパラチフス症例は合計11例であった（図1）。報告された11例のうち、性別では男性が8例（73%）、女性が3例（27%）であった。年代別では20代が4例（36%）で最も多く、次いで50代が3例（27%）であった。渡航歴の有無が確認できた症例は10例であり、全てに海外渡航歴があった。推定される感染地域としてはアジア地域が9例（90%）、アフリカ地域1例（10%）であった。



国立感染症研究所の報告によると、2017年から2021年までに国外からの輸入パラチフス症例が計60例報告されていた。2017年から2019年までは10～20例程度報告されていたが、2020年は6例、2021年は報告なしと減少傾向であった。2022年は9月までの時点で5例報告されており、2021年と比較して増加傾向が認められている¹⁾。今後の発生動向に注意が必要である。

パラチフスは腸内細菌科サルモネラ属に属するチフス菌による全身性感染症であり、一般のサルモネラ感染症とは区別される。南アジア、東南アジアでの罹患率が高く、また中南米、アフリカでも発生がみられる。日本における発生は散発的であり、その多くは流行地域への渡航者による輸入事例である²⁾。

臨床症状は通常、7～14日間（報告によっては3～60日間）程度の潜伏期間を経て、発熱、頭痛、全身倦怠感、高熱、徐脈、バラ疹、脾腫などの症状を呈する。ごく少量の菌数で感染することがあり、多くの場合、ヒトの糞便や尿で汚染された食物や水が当該疾患を媒介するため、衛生環境の改善が感染リスクの減少につながる。パラチフスに対するワクチンは現在のところ流通していない。予防のためには、汚染されている可能性のある食べ物や水に注意し、十分に加熱された飲食物を摂取することや手洗いの励行等が重要となる^{2,3)}。

■参考

1)国立感染症研究所：日本の輸入感染症例の動向について

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/niid/ja/route/transport/1709-idsc/8045-imported-cases.html>

2)国立感染症研究所：腸チフス・パラチフスとは

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/440-typhi-intro.html>

3)FORTH：お役立ち情報 腸チフス、パラチフス

<https://www.forth.go.jp/useful/infectious/name/name11.html>

《インフルエンザ》

2023年第11週の県全体のインフルエンザ定点当たり報告数は、前週（2023年第10週）の8.60（人）から減少して5.92（人）となった。

保健所管内別では君津11.17（人）で10.0（人）をこえた（図2）。2023年第11週に報告があった1173例のうち、A型1005例（86%）、B型15例（1%）型非鑑別キットで陽性40例（3%）、検査未実施（検査実施未確認例含む）113例（10%）であった。

引き続き、インフルエンザの予防対策を徹底していただきたい。

千葉県：インフルエンザから身を守ろう

<https://www.pref.chiba.lg.jp/shippei/kansenshou/influenza/influenza-yobou.html>

